

キャラクター名 \_\_\_\_\_ プレイヤー名 \_\_\_\_\_  
 『ナーシマス』 \_\_\_\_\_

シンドローム	ソラリス	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	自由人
	ソラリス				
オプション		年齢	?	性別	? (たぶん♂)
覚醒	償い	衝動	解放	初期侵食率	36%
出自	親戚と疎遠	経験	古強者	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	6	0	0			6	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ナックルガン	白兵	1r+3	0	1		I_P177

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ガジュアル		ロイス			
携帯電話		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス消費
思い出の一品		No.51_記憶探索者	P 幸福感	N 恐怖	
コネ:UGN幹部		A市支部のみんな	P 庇護	N 不安	
コネ:噂好きの友人		霧谷雄吾	P 連帯感	N 憐憫	
コネ:情報屋			P	N	
コネ:マスメディア			P	N	
コネ:手配師			P	N	
		最大財産P:	16	残り財産P:	8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ソラリス	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: P129								
アトレリソ	2	3	Xジャー/リアクション	-	-	肉体	-	
効果: P113								
狂戦士	3	5	Xジャー	視界	単体	RC	80	
効果: P117								
力の霊水	3	4	オート	視界	単体	自動	80	
効果: P117								
奇跡の雫	1	6	オート	視界	単体	自動	100	
効果: P117								
女王の降臨	1	5	セットアップ	至近	自身	自動	ヒール	
効果: P118								
活性の霧	7	3	セットアップ	至近	単体	自動	-	
効果: HR_P83								
麗しの容貌	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: P119								
竹馬の友	1	-	常時	至近	単体	Xジャー	-	
効果: P79								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「んもう、支部長なんて堅苦しいわね! なーちゃんって、ヨーン・デ!」

UGN・A市支部を統括するUGN支部長にしてソラリスのピュア・ブリード・シンドローム・オーヴァード。

一度会ったら忘れられない独特なキャラクターとして知られる。女性的な感性を持ち中性的な姿をしているが実際の性別は不明。いかんせん立ち居振る舞いが奇抜であり、くねくねしていたりべたべたまとわりついてくる彼ないし彼女を苦手とするエージェントも確かにいる。(というかほぼすべての人員にまずみだろうと思われている)。しかし常に明るさを絶やさず周囲をまとめ上げ事態の収拾にあたる彼(彼女)はムードメーカーとして必要不可欠であり信頼も厚い。それはそれとしてスキンシップがウザいレベルに達しているのでもはや煙たがられる傾向がある。

己の過去のことをあまり話そうとはしないが、彼ないし彼女をよく知るエージェントが語るには、彼はあえて能力のほとんどを封印して戦っているという。もとよりソラリスのピュアブリードシンドロームであり、記憶探索者、に名を連ねたこともある彼女が、なぜあえて自らの肉体を強化し徒手空拳で前線に出るのか、いまだに謎が多い(過去に他者の記憶を覗き続けたことが原因ではないかと言われてはいる)。

【本質】  
 記憶探索者、の中でも非常に優れた能力者であり、UGNにおいてダブルクロスの調査や捕えた敵エージェントから情報を抜き取ること、それらを意のままに操作することを生業としてきた。彼は数多の任務において重宝されたが、他者への同調(ダイブ)を繰り返すうちに他者の中身を踏み荒らすことへ罪悪感を抱くようになり、ある被験者へのダイブで起こした事故を機に、記憶探索者、としては一線を退いた。ただ、霧谷など上層部からは、記憶探索者、としての働きを求められており、たびたび復帰の打診が来るがすべてあれこれ理由をつけて断っている。余談だが彼女の奇天烈なふるまいは他者へのダイブを繰り返したことでそれと同調し、何かと混ざり合ってしまった結果ではないかとささやかれている。